

交通アクセス



- 大阪モノレール彩都線：『阪大病院前』下車
- JR東海道本線（京都線）：JR茨木駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車
- 阪急電鉄京都線：阪急茨木市駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車
- Osaka Metro御堂筋線：北大阪急行千里中央駅から阪急バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車



The University of Osaka Hospital Outline

大阪大学医学部附属病院 要覧



Live Locally, Grow Globally

2026



〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号 TEL. 06-6879-5111(代表)



THE UNIVERSITY OF OSAKA HOSPITAL



理念

大阪大学医学部附属病院は、
良質な医療を提供すると共に、
医療人の育成と医療の発展に貢献する。

[医の先進性を志して150年余り]

1869(明治2)年大阪府が大福寺に仮病院・医学校を設立した際、緒方洪庵の嗣子緒方惟準、義弟郁蔵、養子拙斎らがこれに参加。この医学校は、後に幾多の変遷を経て現在の大阪大学医学部となった。
阪大病院の理念は緒方洪庵の思想を受け継いでいる。



緒方 洪庵

基本方針

- 患者本位の安心・安全な全人的医療の提供
- 高度な医療の実践と未来医療の開発
- 社会・地域医療への貢献
- 豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

患者さんの権利

- 人として尊重された医療を受けることができます。
- 安全で質の高い医療を受けることができます。
- 十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 他の医療機関の医師に意見(セカンドオピニオン)を聞くことができます。
- 自由な意思によって治療を選ぶことができます。
- 個人の情報は保護されています。

患者さんの責務

- 本院の規則を遵守し、迷惑行為は慎んでください。
- ご自身の健康状態について、できる限り正確にお話してください。
- 適切な治療方針を決めるために、ご自身の意思や意見を伝えてください。
- 治療方針をご理解のうえ、ご協力ください。
- ご加入の保険を正確に伝え、受けた医療に対する医療費をお支払いください。

Contents [目次]

理念・基本方針・患者さんの権利・患者さんの責務 02

高度急性期医療と先進医療の開発・研究を総合力と優れた安全の下で 03

病院長からのご挨拶 04

沿革 05

機構／職種別職員数／職員 07

資料 09

診療科別外来患者数／病棟フロア別入院患者数

資料 11

臨床検査件数／手術件数／画像検査患者数／輸血検査件数／処方枚数／
病理業務件数／リハビリテーション実施単位数／地域別入院患者数／
治療件数／移植件数／院内がん登録件数／入院、外来抗がん剤調製件数／
ドクターヘリ出動件数／分娩件数／血液浄化療法施行件数

医療機関の承認・指定状況等 13

経理状況／未来医療の推進 14

構内建物配置図／階別配置図 15

トピックス 17

2025年5月大阪大学医学部附属病院「統合診療棟」オープン

大阪大学医学部附属病院へのご寄附のお願い 18



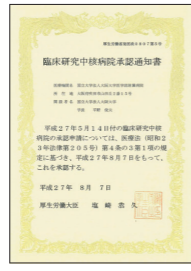
●病院機能評価認定証
2022年1月に
(公財)日本医療機能評価機構から
3rdG:Ver.2.0に認定されました。



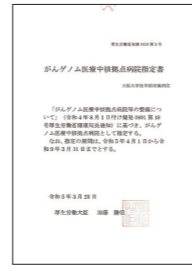
●ISO15189認定証
2025年12月に
(公財)日本適合性認定協会から
再認定されました。



●国際認証AAHRPP取得
2022年12月に日本の病院で初めて
AAHRPP(The Association for the Accreditation of
Human Research Protection Programs, Inc.®)から
認証を得て、2025年12月に再認定されました。



●臨床研究中核病院承認通知書
2015年8月に厚生労働省から
再指定を受けました。



●がんゲノム医療中核拠点病院指定書
2025年3月に厚生労働省から
再指定を受けました。



●大阪府難病診療連携拠点病院指定書
2018年11月に
大阪府から指定を受けました。



●外国人患者受入れ医療機関認定制度(JMIP)認証書
2025年11月に(一財)日本医療教育財団から
再認定されました。



●ISO13485認定証
2023年6月に日本の病院で初めて英国規格協会(BSI)から
認証を得ました。*材料部において取得



高度急性期医療と先進医療の 開発・研究を総合力と優れた安全の下で

【教育】豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

- 臨床と研究能力を兼ね備えた医師の養成。
- 特定行為研修の推進。
- 医療専門職の育成を図るとともに、職員の医療安全能力の向上に資するための実践的教育パッケージの開発を継続し活用する。



【研究】未来医療の開発・実践

- 社会との接点である附属病院の機能を活かし、先進的な医療の開発・導入を図る。
- 臨床研究法等、臨床研究に関わる規制への対応。
- AIホスピタル事業の推進。
- 情報信託機能を用いた医療データ活用実証事業の推進。

【診療】高度な医療の提供

- 病院長のリーダーシップのもと、院内の診療体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 国及び地方公共団体等との連携強化。
- 高度機能病院として必要な診療環境を確保するため、施設の整備・改修を図るとともに、医療機器の更新・充実を図る。
- 患者サービスの更なる向上を図り、患者の立場に立った安心・安全な医療の提供を推進する。
- 医療DXを推進し、国が進める医療DX政策への対応だけでなく、職員への業務支援、患者サービス向上に努める。
- 全臓器移植を行っている国内で2施設しかない施設の1つであり、高度・先進的な臓器移植医療を今後も積極的に展開するとともに、小児も含めた臓器提供体制を十分に整備して責任ある臓器移植・臓器提供病院として本邦の移植医療の規範となる。
- がんゲノム医療の推進。
- 難病ゲノム医療の推進。

【地域医療への貢献】地域医療機関とのネットワーク

- 各センター等による地域医療への貢献を図る。

【国際化】診療と教育のグローバル化

- 国際医療センターにおける外国人患者の診療体制並びに外国人医療従事者等の研修受入れ体制(インバウンド)と、本院を中心に国内で開発された医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術などのグローバル展開体制(アウトバウンド)、国際医療に関わる課題や院内教職員の教育(国際医療/グローバルヘルス研究・教育)を積極的に推進し整備する。

【運営】病院運営のための基盤強化

- 病院長のリーダーシップのもと、運営体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 防災対策及び災害医療に係る検討を行い、院内外の連携体制の強化を図る。

病院長からのご挨拶

「地域に生き世界に伸びる」 大阪大学医学部附属病院を 目指して

大阪大学医学部附属病院

病院長 坂田 泰史



大阪大学医学部附属病院は、「良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献する」ことを理念としております。基本方針として、①患者本位の安心・安全な全人的医療の提供、②高度な医療の実践と未来医療の開発、③社会・地域医療への貢献、④豊かな人間性を持った優れた医療人の育成の4点を掲げ、大阪大学の理念である「地域に生き世界に伸びる」ことを目指して、職員一同日々の診療にあたっております。

私たちが大切にしている3つの「安全」

患者さん本位の安心・安全な全人的医療の提供は、3つの「安全」から実現されると考えております。

● [医療安全] 質の高い医療のために

大阪大学医学部附属病院は2003年4月に全国の大学病院に先駆けて「医療の質・安全」を担当する専門の部門(中央クオリティマネジメント部)を設立しました。これからも日本の国立大学病院のモデルになるべく、安全で質の高い医療を患者さんに提供できるよう努めてまいります。

● [労働安全] 職員の笑顔が患者さんの安心に

職員が心身ともに健康で働ける環境がなければ、患者さんに温かい医療は提供できません。AIなど新しい技術も導入しながら、様々な職種の働き方改革を推進してまいります。

● [環境安全] 誰もが安心して来院できる場所に

外来・入院病棟での防犯や清潔さの維持など、すべての方々が安心して過ごせる環境づくりに全力で取り組みます。このような安全を保つためにも、健全な経営環境が必要であり、みなさまのサポートもいただけるよう経営努力を続けてまいります。

待ち遠しくなる未来へ: 統合診療棟と先進医療

昨年完成した統合診療棟は、「Futurability 待ち遠しくなる未来へ。」というコンセプトに基づき、順調に稼働しております。外来機能、放射線検査、臨床検査部などの中央診療施設が充実し、手術室や低侵襲施設の機能も向上いたしました。また、総合周産期母子医療センター、アイセンターは病棟機能を整備し、診療機能が大幅に強化されました。新たな医療の創出を目指し、医学系研究科をはじめとする大阪大学の関連組織と連携し、再生医療をはじめとする多くの先進医療にも取り組んでおります。

信頼される病院を目指して

大学病院を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、健全な経営努力を続け、これまで以上にみなさまの期待に応えるべく創意工夫を凝らしてまいります。「地域に生き世界に伸びる」大阪大学医学部附属病院を今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

沿革

History

- 1838(天保9)年 蘭学者緒方洪庵「適塾」開塾。

- 1869(明治2)年 新政府は、小松帯刀、後藤象二郎等の提唱により大阪府下大組内久宝寺町(現大阪市天王寺区上本町)に政府直轄大坂病院(緒方一族主宰)を設置した。
- 1870(明治3)年 政府は当該病院を大阪府に移管し、大阪府は府立病院及び医学所を設立した。
- 1871(明治4)年 文部省直轄となった。
- 1872(明治5)年 文部省の学制改革に伴い、医学所及び病院が廃止された。
- 1873(明治6)年 2月 大阪府は西本願寺掛所に大阪府病院を開設し、教授局を付設した。
- 1879(明治12)年 3月 北区常安町に病院を新築し、移転と同時に大阪公立病院と改称、別に教授局を設けた。

- 1880(明治13)年 3月 府立大阪病院と改称し、教授局を分離して、府立大阪医学校を設立した。
- 1888(明治21)年 1月 府立大阪病院を府立大阪医学校に包摂し、校名を大阪医学校と改称した。
- 1893(明治26)年 3月 大阪医学校産婆養成所が開設された。
- 1898(明治31)年 4月 大阪医学校附属看護婦養成所が設立された。
- 1903(明治36)年 10月 専門学校令により、大阪府立高等医学校と改称された。
- 1915(大正4)年 10月 府立大阪医科大学と改称した。
- 1919(大正8)年 11月 大学令により府立大阪医科大学を改組し、大阪医科大学となって病院もこれに準じた。

- 1924(大正13)年 10月 大阪医科大学病院を大阪医科大学附属医院と改称した。(大阪市北区堂島浜通)

- 1931(昭和6)年 5月 勅令第67号により大阪帝国大学が創設され、大阪医科大学を移管して医学部と改称された。

- 1939(昭和14)年 1月 東館が増築された。
- 1945(昭和20)年 6月 看護婦養成所を厚生女子部と改称した。
- 1947(昭和22)年 10月 政令第204号により大阪帝国大学は大阪大学に改められた。
- 1949(昭和24)年 5月 国立学校設置法の公布に従い新制大学に包括され、医学部附属医院の名称は、医学部附属医院に改められた。
- 1951(昭和26)年 4月 大阪大学医学部附属医院厚生女子部を大阪看護学校と改称した。
- 1952(昭和27)年 4月 大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校及び大阪大学医学部附属助産婦学校が設置された。
- 1953(昭和28)年 8月 大阪大学歯学部附属医院の設置(昭和26年3月)に伴い、医学部附属医院の診療科から歯科が分離された。
- 1963(昭和38)年 4月 大阪大学看護学校を大阪大学医学部附属看護学校と改称した。
- 1964(昭和39)年 3月 本院改築第1期工事が完成した。
- 1965(昭和40)年 4月 大阪大学医学部附属衛生検査技師学校が設置された。
- 1966(昭和41)年 4月 大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校に専攻科が設置された。
 12月 本院改築第2期工事が完成した。
- 1968(昭和43)年 3月 大阪大学医療技術短期大学部設置(昭和42年6月)後の学年進行に伴い衛生検査技師学校が廃止された。
 4月 大阪大学医学部附属病院分院が本院に統合された。

- 1969(昭和44)年 4月 大阪大学医療技術短期大学部設置後の学年進行に伴い看護学校及び診療エックス線技師学校が廃止された。
- 1970(昭和45)年 10月 本院改築第3期工事が完成した。
- 1971(昭和46)年 3月 給食厨房棟が完成した。
- 1973(昭和48)年 8月 本院改築第4期工事が完成した。

- 1989(平成元年)年 3月 吹田市山田丘において病棟等の新築工事を着工した。
- 1993(平成5)年 9月 中之島キャンパス(大阪市福島区)から吹田キャンパスに移転したと同時に微生物病研究所附属病院を統合した。

- 10月 大阪大学医療技術短期大学部を発展的に解消し、医学部保健学科が設置された。
- 1994(平成6)年 11月 特定機能病院に承認された。
- 1995(平成7)年 1月 1月17日午前5時46分阪神・淡路大震災発生、本院に多大の被害が生じた。
 3月 ポジトロン核医学診断システム棟が完成した。
- 1996(平成8)年 3月 大阪大学医療技術短期大学部が閉学された。
- 1997(平成9)年 3月 大阪大学医学部附属助産婦学校が閉校された。
 7月 心臓移植実施施設に認定された。
- 1998(平成10)年 4月 肺移植実施施設に認定された。
- 1999(平成11)年 2月 膵臓移植実施施設に認定された。
 移植法施行後初の脳死心臓移植を実施した。
 12月 小腸移植実施施設に認定された。
 病棟屋上にヘリポートが完成した。
- 2000(平成12)年 4月 診療科が22診療科から6大診療科に再編成された。
 5月 肝臓移植実施施設に認定された。
- 2001(平成13)年 1月 日本医療機能評価機構から認定を受けた。
- 2004(平成16)年 4月 国立大学法人法の公布に伴い、大阪大学は国立大学法人大阪大学に改められた。

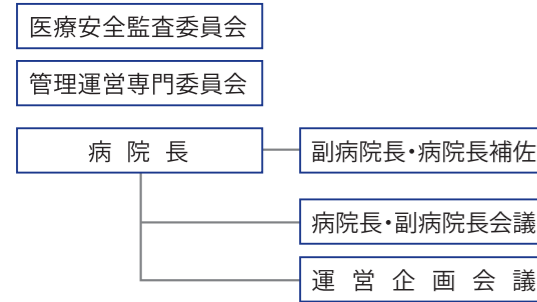
- 2006(平成18)年 1月 日本医療機能評価機構からVer5.0の認定を受けた。
- 2008(平成20)年 1月 大阪府からの委託事業としてドクターヘリの運航を開始した。
- 2009(平成21)年 4月 地域がん診療連携拠点病院に指定された。
- 2011(平成23)年 1月 日本医療機能評価機構からVer6.0の認定を受けた。
- 2012(平成24)年 6月 移植法改正後初の小児(10歳未満)脳死心臓移植を実施した。
- 2015(平成27)年 3月 質の高い倫理審査委員会設置病院として認定された。
 8月 臨床研究中核病院に認定された。
 9月 オンコロジーセンター棟が完成した。
 臨床検査のISO認定を受けた。
- 2016(平成28)年 1月 日本医療機能評価機構から3rdG:Ver.1.1の認定を受けた。
 3月 外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)に認証された。
 9月 ジャパン インターナショナル ホスピタルズ(JIH)に推奨された。
- 2018(平成30)年 3月 がんゲノム医療中核拠点病院に指定された。
 11月 大阪府難病診療連携拠点病院に指定された。
- 2019(令和元年)年 11月 小児がん連携病院に指定された。
- 2020(令和2)年 4月 ドクターカー、DMATカーを導入した。
 地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定された。
 8月 大阪府新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定された。
- 2021(令和3)年 10月 感染症対応トリアージ施設を整備した。
- 2022(令和4)年 1月 日本医療機能評価機構から3rdG:Ver.2.0の認定を受けた。
 12月 国内病院初の国際認証AAHRPPを取得した。
- 2023(令和5)年 6月 国内病院初の医療機器滅菌洗浄のISO認定を受けた。
- 2025(令和7)年 5月 統合診療棟が開院した。



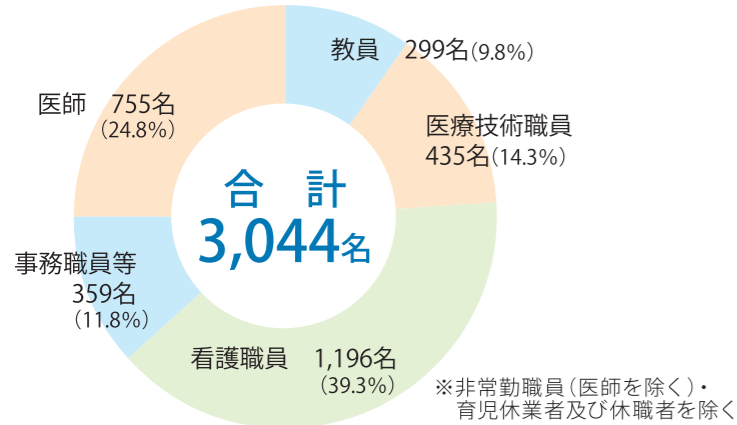
機構／職種別職員数／職員 (2026年5月1日現在)

Organization Chart／Number of Staff／Faculty and Administrative Officers

[機構]



[職種別職員数]



[職員]

管理者

病院長	教授	坂田 泰史	病院長補佐 (研究・臨床研究中核病院担当)	教授	宮川 繁
副病院長 (財務・人事労務担当)	教授	江口 英利	(中央診療施設担当)	教授	小川 和彦
(外部評価・救急医療・災害危機管理担当)	教授	織田 順	(教育・中期目標・計画担当)	教授	下村 伊一郎
(医療安全・地域医療・医療情報担当)	教授	武田 理宏	(広報・がん治療担当)	教授	新谷 康
(ホスピタリティ担当)	看護部長	鍋谷 佳子	(女性支援・ダイバーシティ担当)	教授	小玉 美智子
病院長補佐 (小児・周産期担当)	教授	北島 康司	(職員福利厚生・その他担当)	教授	野々村 祝夫
(診療体制・再開発担当)	教授	貴島 晴彦	(経営・組織改革担当)	事務部長	川村 篤

診療部門

●内科系科	部門長(教授)	山本 浩一	呼吸器外科	科長(教授)	新谷 康利
循環器内科	科長(教授)	坂田 泰史	消化器外科1	科長(教授)	江口 英利
腎臓内科	科長(教授)	猪阪 善隆	消化器外科2	科長事務取扱(教授)	江口 英利
消化器内科	科長(教授)	小玉 尚宏	乳腺・内分泌外科	科長(教授)	島津 研三
糖尿病・内分泌・代謝内科	科長(教授)	下村 伊一郎	小児外科	科長(教授)	渡邊 美穂
呼吸器内科	科長事務取扱(病院教授)	平田 陽彦	病理診断科	科長(教授)	森井 英一
免疫内科	科長事務取扱(病院教授)	西出 真之毅	●感覚・皮膚・運動系科	部門長(教授)	久保 盾貴
血液・腫瘍内科	科長(教授)	保仙 直毅	眼科	科長(教授)	西田 幸二
老年・高血圧内科	科長(教授)	山本 浩一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長(教授)	猪原 秀典
総合診療科	科長(教授)	山本 浩一	整形外科	科長(教授)	岡田 誠司
感染症内科	科長(教授)	忽那 賢志	皮膚科	科長(教授)	藤本 学
●外科系科	部門長(教授)	島津 研三	形成外科	科長(教授)	久保 盾貴
心臓血管外科	科長(教授)	宮川 繁	リハビリテーション科	科長(教授)	岡田 誠司



●脳神経精神科	部門長(教授)	貴島 晴彦
脳神経内科	科長事務取扱(病院教授)	奥野 龍禎
神経科・精神科	科長事務取扱(准教授)	吉山 顕次
脳神経外科	科長(教授)	貴島 晴彦
麻酔科	科長(教授)	吉田 健史

●女性・母子・泌尿生殖科	部門長(教授)	野々村 祝夫
産科	科長(教授)	小玉 美智子
婦人科	科長(教授)	小玉 美智子
小児科	科長(教授)	北島 康司
泌尿器科	科長(教授)	野々村 祝夫

●放射線科	部門長(教授)	富山 憲幸
放射線診断・IVR科	科長(教授)	富山 憲幸
放射線治療科	科長(教授)	小川 和彦
核医学診療科	科長(講師)	磯橋 佳也子

●救急・集中治療科	部門長(教授)	吉田 健史
集中治療科	科長(教授)	吉田 健史
救命救急科	科長(教授)	織田 順

中央診療施設

[管理部門]

●材料部	部長(病院教授)	野田 剛広
●病理部	部長(教授)	森井 英一
●輸血・細胞療法部	部長(病院教授)	加藤 恒
●医療情報部	部長(教授)	武田 理宏
●感染制御部	部長(教授)	忽那 賢志
●中央クオリティマネジメント部	部長(教授)	中島 和江
●臨床工学部	部長(講師)	小山 有紀子
●移植医療部	部長(病院教授)	上野 豪久
●栄養マネジメント部	部長(教授)	下村 伊一郎
●サブライセンター	センター長(病院教授)	野田 剛広
●卒後教育開発センター	センター長(教授)	渡谷 健二
●看護部キャリア開発センター	センター長	鍋谷 佳子
●高難度新規医療技術審査部	部長(教授)	新谷 康利
●未承認新規医薬品等診療審査部	部長(教授)	江口 英利
●AI医療センター	センター長(教授)	西田 幸二
●患者包括サポートセンター	センター長(教授)	山本 浩一
●診療支援センター	センター長(教授)	江口 英利
●バイオリソースセンター	センター長(教授)	宮川 繁

[中央診療部門]

●臨床検査部	部長(講師)	高原 充佳
●手術部	部長(病院教授)	野田 剛広
●放射線部	部長(教授)	小川 和彦
●集中治療部	部長(教授)	吉田 健史
●リハビリテーション部	部長(教授)	岡田 誠司
●総合診療部	部長(教授)	山本 浩一
●血液浄化部	部長(教授)	猪阪 善隆
●遺伝子診療部	部長(教授)	高橋 正紀
●化学療法部	部長(准教授)	福島 健太郎
●放射線治療部	部長(教授)	小川 和彦
●総合周産期母子医療センター	センター長(教授)	北島 康司
●高度救命救急センター	センター長(教授)	織田 順
●内視鏡センター	センター長(教授)	小玉 尚宏
●超音波検査センター	センター長(講師)	高原 充佳
●アイセンター	センター長(教授)	西田 幸二

[連携診療部門]

●脳卒中センター	センター長(教授)	貴島 晴彦
●前立腺センター	センター長(教授)	野々村 祝夫
●睡眠医療センター	センター長(教授)	足立 浩祥
●疼痛医療センター	センター長(教授)	貴島 晴彦
●生殖医療センター	センター長(教授)	野々村 祝夫
●ハートセンター	センター長(教授)	宮川 繁
●小児医療センター	センター長(教授)	北島 康司
●オンコロジーセンター	センター長(教授)	島津 研三
●呼吸器センター	センター長(教授)	新谷 康
●てんかんセンター	センター長(教授)	貴島 晴彦
●消化器センター	センター長(教授)	江口 英利
●IVRセンター	センター長(准教授)	東原 大樹
●胎児診断治療センター	センター長(教授)	渡邊 美穂
●難病医療推進センター	センター長(教授)	北島 康司
●子どものこころの診療センター	センター長(教授)	北島 康司
●がんゲノム医療センター	センター長(教授)	島津 研三
●糖尿病・肥満症センター	センター長(教授)	下村 伊一郎
●緩和医療センター	センター長(教授)	江口 英利
●腸管不全治療センター	センター長(病院教授)	上野 豪久
●摂食嚥下センター	センター長(教授)	猪原 秀典
●アイトープ治療センター	センター長(教授)	小川 和彦
●リウマチセンター	センター長(教授)	岡田 誠司

薬剤部

部長(教授)	奥田 真弘
副部長	山本 智也
副部長(准教授)	前田 真一郎
副部長	有持 潤子
副部長	原 伸輔
副部長(准教授)	池村 健治

看護部

部長	鍋谷 佳子
副部長	天野 美希
副部長	家平 裕三子
副部長	堀井 菜緒子

医療技術部

部長	佐藤 和彦
副部長	橋田 剛一
副部長	楠本 繁崇
副部長	上野 智浩

未来医療開発部

部長(教授)	宮川 繁
副部長(教授)	保仙 直毅
副部長(教授)	武田 理宏
センター長(教授)	名井 陽
センター長(教授)	宮川 繁
センター長(特任教授(常勤))	山田 知美
センター長(教授)	中谷 大作

事務部

部長	川村 篤
次長	中野 哲也
課長	中野 哲也
室長	中野 哲也
課長	東堤 忠勝
課長	赤木 剛
課長	吉田 寛仁
課長	鋤崎 信男
課長	神原 章人
室長	神原 章人

●総務課

災害対策室

●管理課

●経営戦略課

●教育研究支援課

●医事課

●患者支援課

患者サービス推進室

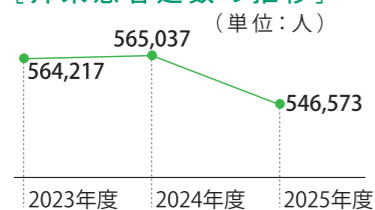
[診療科別外来患者数]

区分	新規外来患者数 (単位:人)	外来患者延数 (単位:人)	一日平均患者数 (単位:人)
■総合診療科	351	2,456	10.2
■循環器内科	561	23,661	97.8
■腎臓内科	273	15,785	65.2
■消化器内科	967	42,250	174.6
■糖尿病・内分泌・代謝内科	377	36,928	152.6
■呼吸器内科	287	11,901	49.2
■免疫内科	436	22,632	93.5
■血液・腫瘍内科	313	14,774	61.1
■老年・高血圧内科	277	9,732	40.2
■感染症内科	110	1,179	4.9
■心臓血管外科	318	8,750	36.2
■呼吸器外科	227	8,052	33.3
■消化器外科	701	28,713	118.7
■乳腺・内分泌外科	534	17,047	70.4
■小児外科	226	5,838	24.1
■眼科	4,450	64,414	266.2
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,409	25,516	105.4
■整形外科	1,473	26,785	110.7
■皮膚科	1,038	20,923	86.5
■形成外科	361	8,881	36.7
■脳神経内科	481	17,590	72.7
■神経科・精神科	562	17,373	71.8
■脳神経外科	710	15,528	64.2
■麻酔科	207	12,448	51.4
■産科・婦人科	1,924	28,133	116.3
■小児科	745	20,318	84.0
■泌尿器科	702	21,029	86.9
■放射線診断・IVR科			
■放射線治療科	73	12,546	51.8
■核医学診療科			
■救命救急科	43	1,013	4.2
■歯科	2,511	4,378	18.1
合計	22,647	546,573	2,258.6

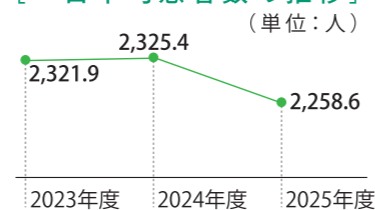
[新規外来患者数の推移]



[外来患者延数の推移]



[一日平均患者数の推移]



[病棟フロア別入院患者数]

西病棟						東病棟					
階	診療科	入院患者延数 (単位:人)	一日平均入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病床稼働率 (単位:%)	階	診療科	入院患者延数 (単位:人)	一日平均入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病床稼働率 (単位:%)
13	■脳神経精神科 (脳神経外科)	14,650	40.1	13.2	81.9	13	■感覚・皮膚・運動系科 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)	15,478	42.4	13.1	83.1
12	■女性・母子・泌尿生殖器科 (泌尿器科)	15,573	42.7	10.6	88.9	12	■内科系科 (糖尿病・内分泌・代謝内科/免疫内科)	16,886	46.3	14.5	87.3
11	■外科系科 (消化器外科)	16,155	44.3	14.6	88.5	11	■内科系科 (消化器内科)	16,337	44.8	11.5	89.5
10	■外科系科 (消化器外科)	17,010	46.6	15.5	87.9	10	■内科系科 (血液・腫瘍内科)	15,349	42.1	16.5	85.8
9	■外科系科 (心臓血管外科)	16,394	44.9	16.8	91.7	9	■内科系科 (循環器内科)	16,056	44.0	13.9	88.0
8	■外科系科 (乳腺・内分泌外科) ■感覚・皮膚・運動系科 (皮膚科/形成外科)	15,139	41.5	9.1	83.0	8	■脳神経精神科 (脳神経内科) ■内科系科 (老年・高血圧内科/総合診療科)	15,494	42.4	15.3	84.9
6	■外科系科 (小児外科)	9,898	27.1	10.0	75.3	7	■内科系科(呼吸器内科) ■外科系科(呼吸器外科)	15,472	42.4	12.1	86.5
5	■感覚・皮膚・運動系科 (整形外科)	15,323	42.0	18.0	82.3	6	■女性・母子・泌尿生殖器科 (小児科)	12,277	33.6	13.0	93.4
						5	■女性・母子・泌尿生殖器科 (産科・婦人科)	15,390	42.2	8.1	87.8
						4	■集中治療部	4,528	12.4	10.2	82.7
						3	■内科系科 (腎臓内科/内科共通) ■放射線科 ■脳神経精神科 (麻酔科)	10,647	29.2	8.8	71.1
						2	■脳神経精神科 (神経科・精神科)	9,705	26.6	38.1	51.1
						1	■高度救命 救急センター	7,549	20.7	6.3	103.4

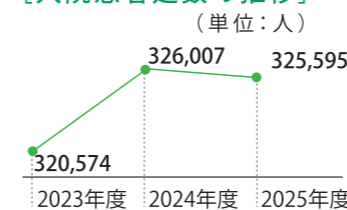
統合診療棟

階	診療科	入院患者延数 (単位:人)	一日平均入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病床稼働率 (単位:%)
6	■アイセンター※ (眼科)	15,783	43.2	8.9	86.2
5	■総合周産期 母子医療センター※	14,472	39.6	7.1	83.5
4	■集中治療部※	4,030	11.0	15.0	81.5

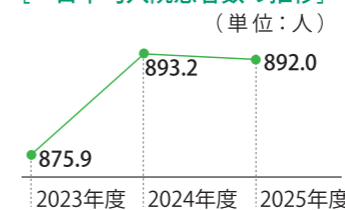
※移転前の西病棟の数値を含む(5月6日まで)

合計	入院患者延数 (単位:人)	325,595	一日平均入院患者数 (単位:人)	892.0	平均在院日数 (単位:日)	12.1	病床稼働率 (単位:%)	83.9
-----------	------------------	----------------	---------------------	--------------	------------------	-------------	-----------------	-------------

[入院患者延数の推移]



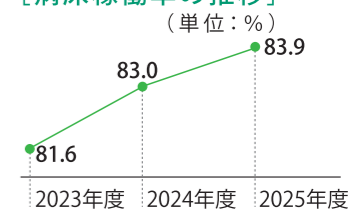
[一日平均入院患者数の推移]



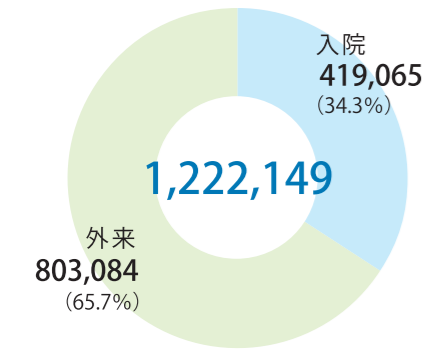
[平均在院日数の推移]



[病床稼働率の推移]



[臨床検査件数] (単位: 件)



[手術件数] (単位: 件)

■循環器内科	85
■心臓血管外科	1,189
■呼吸器外科	399
■消化器外科	788
■乳腺・内分泌外科	409
■小児外科	398
■眼科	4,372
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	811
■整形外科	787
■皮膚科	223
■形成外科	614
■神経科・精神科	193
■脳神経外科	463
■麻酔科	72
■産科・婦人科	960
■泌尿器科	793
■高度救命救急センター	597
■骨髄採取(血液・腫瘍内科)	5
■その他 (消化器内科、小児科、腎臓内科、放射線治療科)	166
合計	13,324

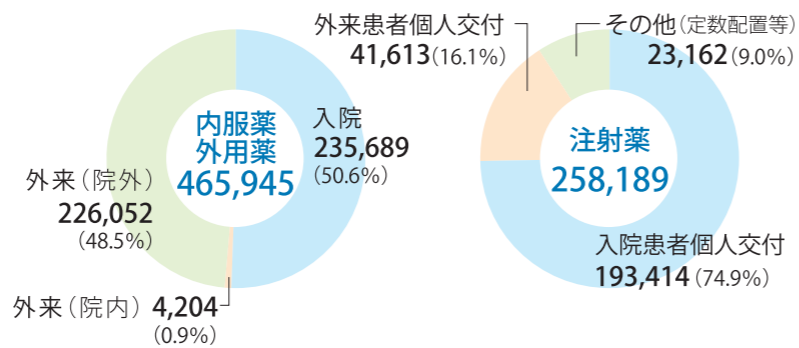
[画像検査患者数] (単位: 人)

区分	入院患者数	外来患者数	合計
■一般撮影	58,329	53,751	112,080
■特殊撮影	28,371	29,555	57,926
■核医学検査	1,014	4,060	5,074
合計	87,714	87,366	175,080

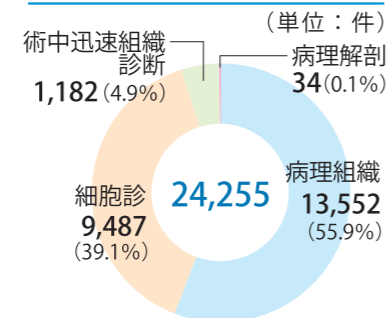
[輸血検査件数] (単位: 件)

■血液検査 ABO,Rh(D)	22,948
■その他血液型 (Rh Cc Ee 含む)	52
■不規則抗体検査 (スクリーニング検査)	20,608
■交差適合試験	13,124
■抗血小板抗体検査	76
■寒冷凝集反応	116
■直接クームス試験	309
■間接クームス試験	231
合計	57,464

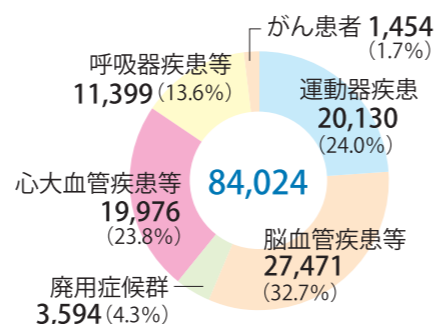
[処方枚数] (単位: 枚)



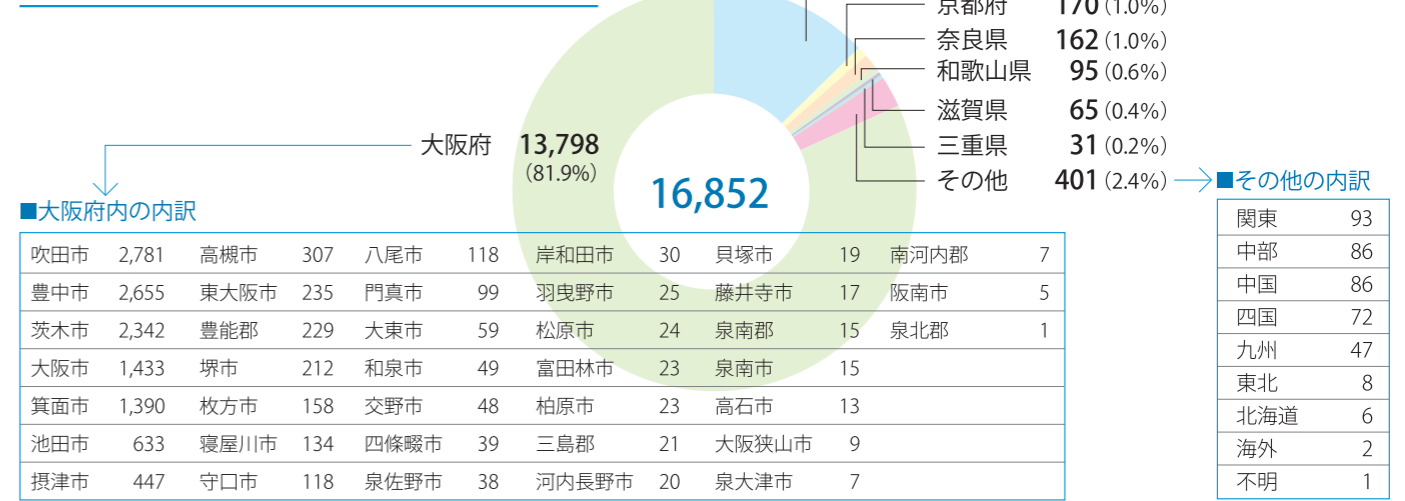
[病理業務件数] (単位: 件)



[リハビリテーション実施単位数]



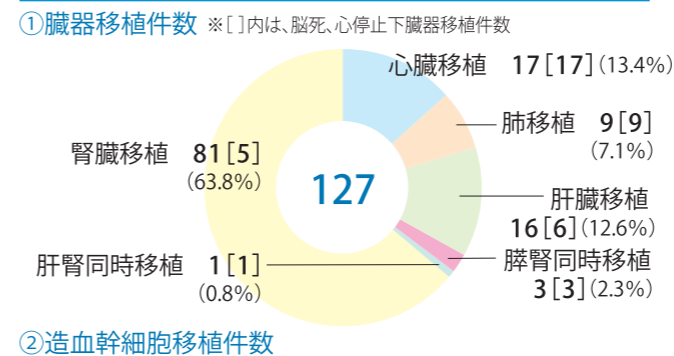
[地域別入院患者数] (単位: 人)



[治験件数] (単位: 件)

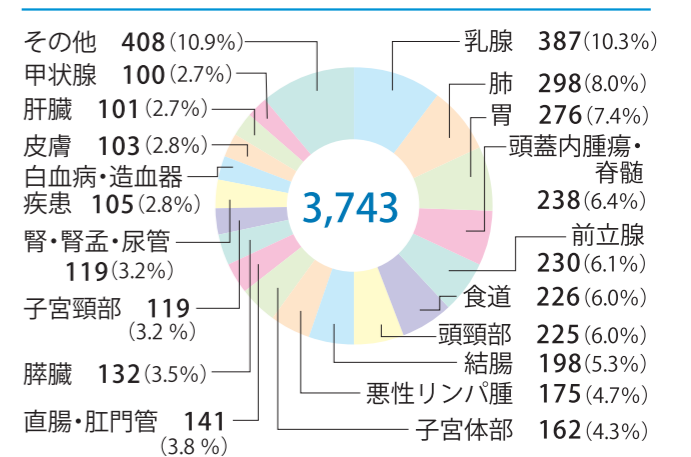
	総件数	総症例数
■医薬品	283	1,201
■医療機器	28	164
総計	*311	*1,365

[移植件数] (単位: 件)

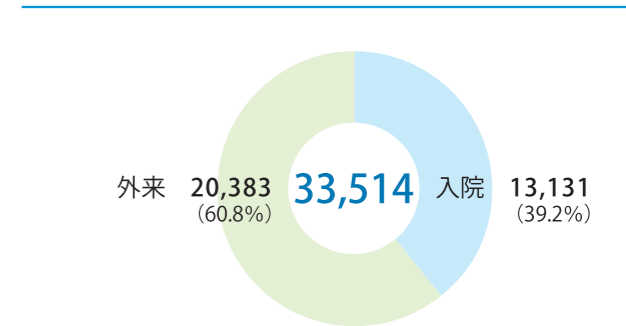


区分	成人	小児
■血縁者間移植	10	1
■非血縁者間移植	12	2
・骨髄バンク	12	2
・臍帯血	0	0
■自家移植	4	2
合計	26	5

[院内がん登録件数] ※2024年診断分 (単位: 件)



[入院、外来抗がん剤調製件数] (単位: 件)



[ドクターヘリ出動件数] 121件

[分娩件数] 566件

[血液浄化療法施行件数] 5,136件

医療機関の承認・指定状況等 (2026年5月1日現在)

Legal Authorization of Medical Services

[医療機関の承認・指定]

- 臨床修練指定病院
- 医療法第7条第1項による開設許可(承認)
- 健康保健法による特定承認保険医療機関
- 生活保護法による医療機関(医療扶助)
- 労働者災害補償保険法による指定医療機関(療養補償・社会復帰促進等事業)
- 原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律による医療機関(認定疾病医療・一般疾病医療)
- 母子保健法による妊婦乳児健康診査
- 母子保健法による指定医療機関(養育医療)
- 戦傷患者特別援護法による指定医療機関(更生医療)
- 医療法による特定機能病院
- エイズ治療拠点病院
- 大阪府災害拠点病院
- 感染症予防法による指定届出機関(基幹定点)
- 大阪府三次救急医療機関
- 大阪府肝炎専門医療機関
- 覚せい剤取締法による国の開設する覚せい剤施用機関
- 障害者総合支援法による自立支援医療(更生医療)
- 障害者総合支援法による自立支援医療(育成医療)
- 結核指定医療機関
- 先天性血液凝固因子障害等医療費援助事業による契約医療機関
- 障害者総合支援法による自立支援医療(精神通院医療)
- 入管難民法による出入国管理及び難民認定法に基づく指定医
- 大阪府総合周産期母子医療センター指定
- 医療観察法による指定通院
- 大阪府肝疾患診療連携拠点病院
- 児童福祉法による指定小児慢性特定疾病医療機関
- 難病の患者に対する医療等に関する法律による指定医療機関
- 臨床教授等指定病院
- 医療法による臨床研究中核病院
- がんゲノム医療中核拠点病院
- 大阪府難病診療連携拠点病院
- 外国人患者受入れ医療機関
- 小児がん連携病院
- 大阪府小児がん拠点病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 大阪府てんかん支援拠点病院
- 大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関
- 大阪府がん患者妊よう性温存治療実施医療機関
- 大阪府小児中核病院
- 公害健康被害の補償等に関する法律による指定医療機関

※太字は大阪府による承認指定

[先進医療]

- 術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブーパクリタキセル静脈内投与の併用療法
(切除可能な膵臓がん(七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。))
- 流死産検体を用いた遺伝子検査
- 二段階胚移植術
- タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養
- 子宮内膜受容能検査1
- 術後のアスピリン経口投与療法
(下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。))
- 膜構造を用いた生理学的精子選択術
- アナモレリン塩酸塩経口投与 体重減少
(食道がんに対する食道全全摘胃管再建術又は胃がんに対する噴門側胃切除術若しくは胃全摘術を実施したものに限る。)
- 脊髄腫膜瘤胎児手術
- 抗ネオセルフβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体検査
- 強拡大顕微鏡を用いた形態学的精子選択術
- 腹腔鏡下卵巢悪性腫瘍手術

経理状況／未来医療の推進

Finance／Translational Research

[収入と支出] (2025年度) ※受託研究等外部資金及び施設費は除く

収入 (単位：千円)		支出 (単位：千円)	
区分	金額	区分	金額
運営費交付金	5,333,318	人件費	20,005,461
附属病院収入	52,114,704	医療費	27,405,862
その他収入	3,444,614	債務償還経費	2,392,055
合計	60,892,636	業務費	10,949,258
		借入金返済	140,000
		合計	60,892,636

[受託研究等外部資金及び施設費] (2025年度)

外部資金受入額 (単位：千円)		施設費 (単位：千円)		
区分	金額	区分	金額	
受託研究等収入	受託研究	468,826	施設整備	0
	治験	895,050	合計	0
	共同研究	62,457		
受託事業等収入	受託実習生	6,065		
	病院研修生	169		
	その他	25,991		
	共同事業	0		
寄附金収入	87,000			
補助金等収入	2,434,157			
合計	3,979,715			

トランスレーショナルリサーチの推進

新しい医療を開発し、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用していくトランスレーショナルリサーチ(TR)を実践推進していきます。

- TRの実施件数(2025年度)
- 新規TRシーズ支援件数：50件
- 臨床研究新規許可件数：5件
(内4件医師主導治験)

診療と教育・研究のグローバル化

本院では2013年4月に、外国人診療や外国人医療研修に関連する様々な業務やコーディネートを一貫して行う部署として、国際医療センターを設置し、各部署と連携しながら診療・教育・研究のグローバル化を目指して下記の事業に取り組んでいます。

| 国際診療支援基盤整備

- 海外からの患者受入れ体制の整備
- 海外からの医療研修受入れの推進
- 国際医療ネットワーク形成

| アウトバウンド

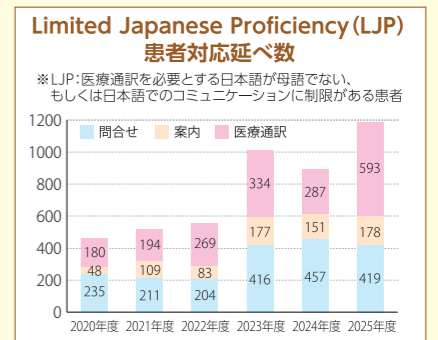
- 世界市場への日本の医薬品・医療機器の展開
- 国際共同治験・共同研究の推進
- 日本の医療システムの海外進出

| 国際医療教育・研究

- 大阪大学内外の研究・教育施設との国際医療教育・研究の推進

| 国際機能評価

- 外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)認証(2025年認証更新)
- ジャパン インターナショナル ホスピタルズ(JIH)に推奨
- 大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関に選定(2019年10月)



構内建物配置図／階別配置図

Building Layout／Building Directory



[統合診療棟]

8階	機械室
7階	医療情報部、未来医療開発部 医事課事務室
6階	アイセンター(眼科)、 遺伝子診療部、 移植医療部、 がんゲノム医療センター
5階	総合周産期母子医療センター
4階	手術部、集中治療部(第1 ICU)
3階	臨床検査部、輸血・細胞療法部、 材料部、病理部
2階	外来(E-Iブロック) 栄養相談室、授乳室、 コンビニエンスストア
1階	外来(A-Dブロック)、 患者包括サポートセンター 総合案内、総合受付、 患者相談室、 医事課事務室、 患者支援課事務室、 守衛室、防災センター
B1階	放射線部、内視鏡センター
B2階	バイオリソースセンター、 放射線治療科

[病棟・診療棟]

14階	レストラン、会議室、中央クオリティマネジメント部
13階～ 8階	西病棟、東病棟
7階	東病棟
6階～ 5階	西病棟、東病棟
4階	集中治療部(第2 ICU)
3階	東病棟
2階	東病棟、看護部、血液浄化部、感染制御部 高度救命救急センター、リハビリテーション部、 入退院センター、守衛室、防災センター、 郵便局、コンビニエンスストア、 飲食店、薬局、医学専門書店、理・美容院等
1階	
B1階	薬剤部、栄養管理室

[外来・中央診療棟]

4階	看護部キャリア開発センター ボランティア控室、 院内学級職員室、 シミュレーション室、 フェーズ1病床、 細胞培養調整施設(CPC)
3階	臨床工学部
2階	
1階	院内処方窓口 患者図書コーナー
B1階	放射線部 歯科治療室、 中央病歴室、 時間外薬剤交付窓口

[医学部・同附属病院共通棟]

3階	医学部長室、病院長室、事務部長室、 会議室等
2階	病院 総務課事務室、 病院 管理課事務室、 病院 経営戦略課事務室
1階	病院 管理課事務室、 医学部 事務室

[オンコロジーセンター棟]

5階	がん相談支援センター、 薬剤部(オンコロジーセンター室)
4階	
3階	化学療法室
2階	化学療法室
1階	受付、診察室、採血・検査室
L階	スタッフエリア、設備室

[最先端医療イノベーションセンター棟]

4階	未来医療開発部、 病院 教育研究支援課事務室
----	---------------------------

※経済産業省の平成22年度先端技術実証・評価設備整備費補助金(技術の橋渡し拠点事業)により、大阪大学医学系研究科に設立された、産学官連携の研究拠点(地上9階・地下1階建て)

[病床数] 1,086床 ※フェーズ1病床(10床)を含む

トピックス (2025年度)

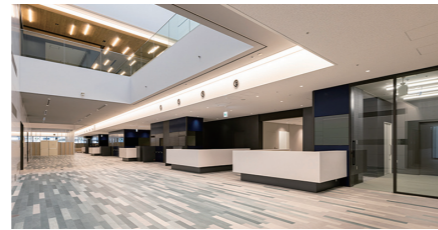
Topics

2025年5月 大阪大学医学部附属病院「統合診療棟」オープン



【統合診療棟】

2025年5月7日に開院した新棟。外来診療施設や中央診療施設のほか、高度医療を支える各部門を集約している。



【1階 外来ホール】

来院者を迎える空間として、わかりやすさと快適性に配慮している。



【3階 光庭】

自然光を取り込む明るい空間を設け、利用者が安らぎを感じられるよう配慮している。

本院では、高度で安全な医療を通して、患者さんに安心と満足を提供することを目指して日々の診療を行っています。1993年に中之島から吹田へ移転してから30年以上が経過したこともあり、老朽化や狭隘化が目立つようになってきました。

そこで、本院に課せられた、良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献するという使命を果たすべく、「Futurability 待ち遠しくなる未来へ。」というコンセプトのもと、2013年に再開発計画を始動しました。

地中障害物の撤去による工期延長や社会情勢の影響による建築費の高騰など様々な困難に直面しましたが、12年の月日を要し、ようやく外来・中央診療棟の北側に新棟である「統合診療棟」が完成し2025年5月7日に開院しました。

新棟には、外来診療施設、手術部などの中央診療施設のほか、総合産産期母子医療センター、アイセンターなど病院の高度機能を支える部門が設置されています。

また、大学病院でしかできない臨床医学研究・開発のための未来医療センターやバイオリソースセンターといった収益に結びつかない将来の医療に必要な部門も含まれており、これまで以上にすばらしい診療体制が整いました。

今後は、新病棟の整備も行うことを予定しており、より一層発展した医療を提供し、未来を見据えてさらに発展・進化していく阪大病院にどうかご期待していただきたいと思います。



【4階 手術室】

各手術室は7.5mx8.5mを基本に構成し、様々な診療科の手術に対応すると共に、多くの医療機器を配置できる余裕のある汎用性の高い手術室としている。



【5階 NICU】

NICU(新生児特定集中治療室)は9床→12床に増床、うち1床を重症対応の個室とすることで機能を強化。また、壁及び天井には、赤ちゃんに直接風が当たらないよう輻射空調パネルを採用。



【6階 アイセンター廊下】

【光がつなく世界一のアイセンター】をコンセプトに、光を効果的に利用した内装とした。(ゴボ照明による床上エリアサイン、照明内蔵手すり、天井部間接照明等)

大阪大学医学部附属病院へのご寄附のお願い

大阪大学医学部附属病院では、医学教育、学術研究や教育・研修の充実、および病院運営に対し、企業や個人の皆様から広くご寄附を受け入れ、その成果を通じて地域連携支援や社会貢献に役立てています。

本院は、患者本位の安心・安全な全人的医療の提供、高度な医療の実践と未来医療の開発、社会・地域医療への貢献、豊かな人間性を持った優れた医療人の育成を基本方針としています。

本院の運営をはじめ教育研究の充実発展のために、温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附の使い方

大阪大学医学部附属病院へのご寄附は、教育研究に必要な機器・材料の購入や医療従事者の育成及び病院運営などに活用させていただきます。

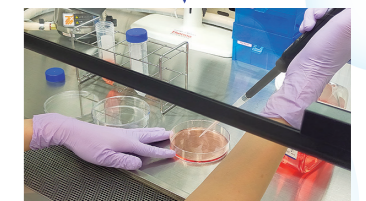
診療—安全で質の高い医療の提供



教育—優れた医療人の育成



研究—社会に貢献する未来医療の開発



ご寄附をいただいた方への顕彰

大阪大学医学部附属病院へのご寄附をいただいた皆様には、

- 大阪大学総長名の感謝状を贈呈させていただきます。
- ご芳名を医学部附属病院のホームページに掲載させていただきます。
- さらに、累計50万円以上のご寄附をいただいた方へ
 - ・ご芳名をプレート(※1)に記し、医学部附属病院の外来エントランスに掲示させていただきます。
 - ・500万円以上のご寄附をいただいた個人のご寄附者様に意向を確認の上、文部科学省に紺綬褒章を申請させていただきます。

(※1) プラチナ:5,000万円以上 ゴールド:500万円以上 シルバー:100万円以上 ブロンズ:50万円以上

ご寄附の税制上の優遇措置

ご寄附いただいた寄附金には、税制上の優遇措置があります。

寄附者が会社などの場合
ご寄附の全額が損金に算入されます

寄附者が個人の場合
その年中にご寄附いただいた合計額(総所得額の40%を限度)から2千円を差し引いた額について、所得控除を受けることができます

ご寄附の受け入れの制限

次に該当するご寄附は、受け入れることができません。

- ご寄附を受け入れることによって財政負担が伴うもの
- ご寄附を受け入れる場合に次の条件が附されているもの
 - ご寄附により取得した財産を無償で寄附者に譲渡すること
 - ご寄附による学術研究の結果得られた知的財産などを寄附者に譲与し、または無償で使用させること
 - ご寄附について、寄附者が会計検査を行うこととされていること
 - 寄附申込み後、寄附者の意思によりご寄附の全部または一部を取り消すことができること

ご寄附の申込み手続き

大阪大学医学部附属病院へのご寄附についてご検討いただける方は、QRコードをご参照いただくか、下記問い合わせ先までご連絡ください。お手続きについて、ご案内させていただきます。



個別の診療科へのご寄附についても
下記問い合わせ先までご連絡ください。

大阪大学医学部附属病院
THE UNIVERSITY OF OSAKA HOSPITAL

問い合わせ先

大阪大学医学部附属病院 教育研究支援課総括係
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号 TEL.06-6210-8277
<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/contribution/index.html>